

自己肯定感を高め、仲間のよさを認め合える学級づくり

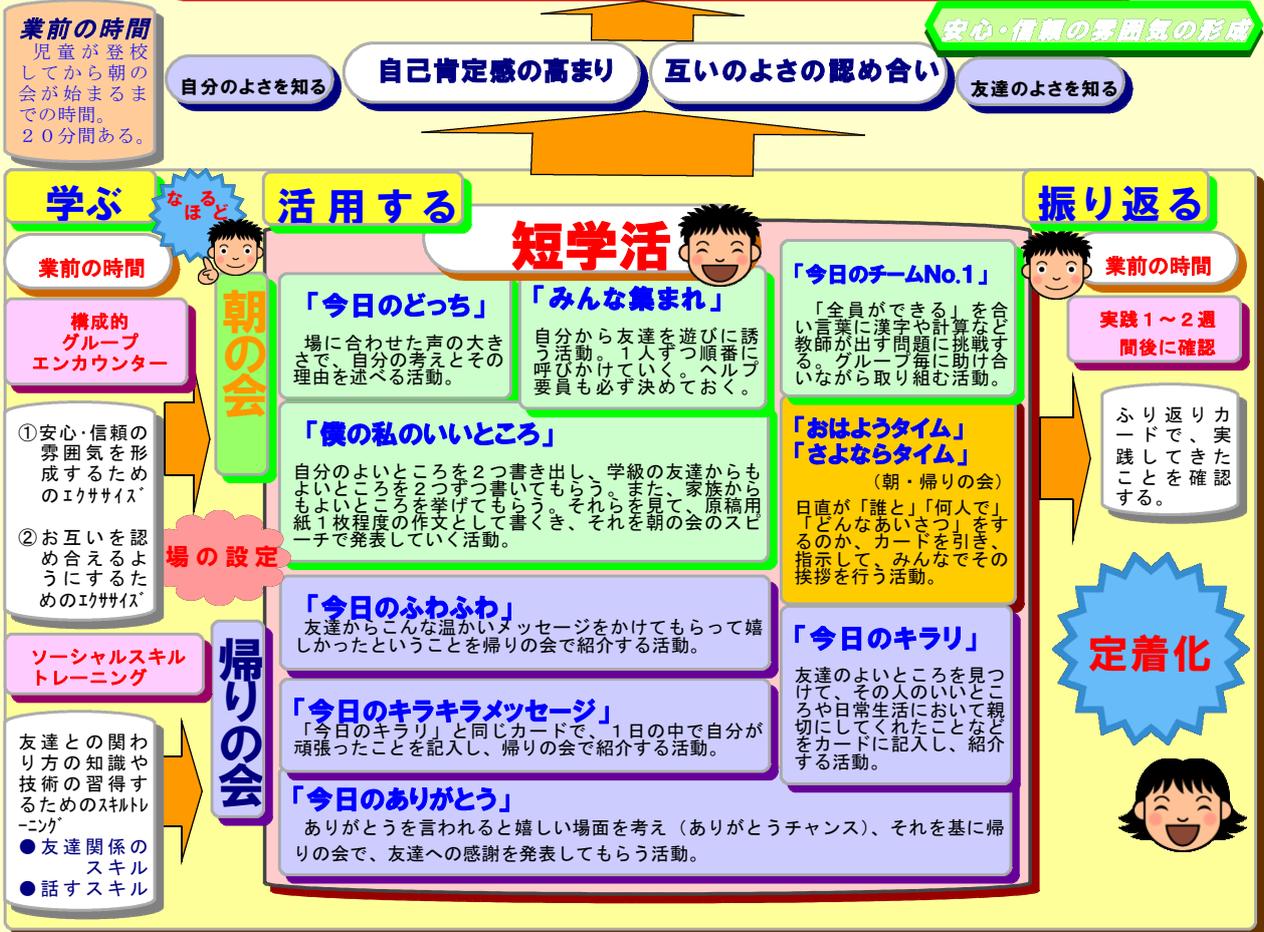
—朝・帰りの会における活動の工夫と実践を中心に—

研究の概要

生徒指導・教育相談班 津久井 哲(小学校教諭)

本研究では、小学校4年生を対象に児童一人一人が自己肯定感を高め、仲間のよさを認め合える学級づくりを目指した。そのためにソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターを業前の時間に行い、知識や技術を学ぶ。次に朝・帰りの会にそれを実践できる様々な活動を取り入れていく。最後に振り返りを行い学習の定着を図る。この3段階のステップを踏むことで、自己肯定感が上がり、安心・信頼の雰囲気形成し、仲間を認め合える学級になるだろうと考え、実践研究を行った。

自己肯定感を高め、仲間のよさを認め合える学級



学級・児童の実態

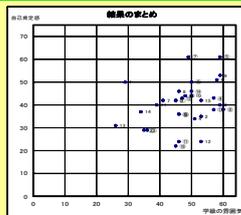
自分の思いを相手に伝えられない。授業中、自分の考えに自信がなかったり、間違ふことを嫌がったりして、発言が少ない。児童同士の交流が少ない。相手の気持ちまで考えず、不用意な発言で嫌な思いをさせてしまう。

C&Sの結果

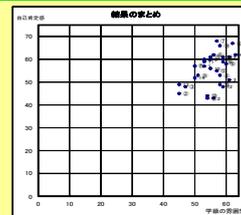
一人一人の自己肯定感が上がり、学級の雰囲気もよいと感じていることがわかる。



5月実施



11月実施



成果と課題

本研究において、C&Sの変容を見てみると多くの児童が自己肯定感を高め、学級の雰囲気もよいと感じている。業前の時間や学級活動、道徳にSSTやSGEに取り組み、学んだことを朝の会や帰りの会で活用できるような場を設定したことは、児童にとって有効であり、定着を図ることができた。スキルを学ぶだけでなく、場を設定することで、それを実践し自信をつけた児童が多かった。SGEでは、自分や仲間のよいところに気が付くようになり、仲間のがんばりを認め合えるようになった。児童同士の意識が高まり、よい雰囲気ができた。しかし、実施計画の見直し、内容の精選も必要である。引き続き児童の実態を的確に把握し、それにあったSSTやSGEを取り入れ、継続的に朝・帰りの会に場を設定し、実践を行っていきたい。